

平成30年度各部の重点取組の取組結果

部(局)名	水道部
部(局)長名	岡本 武

【基本姿勢】

本市がめざすべき水道事業の姿を「地域の水道として、お客さまとともに、安定した安心・安全の水道」とし、その実現に向け事業に取り組みます。

安全な水道を快適にお使いいただけるように、水道GLP（優良試験所規範）を維持するとともに経年化した施設の更新などを進めます。また、災害時や事故時においても安定して水道水を給水できるように、施設の耐震化を進めるなど災害対策の向上に努めます。

経営面においては、持続可能な事業運営を目指し経営基盤の安定を図るために、経営戦略と位置付ける新たな基本計画（水道事業ビジョン）を策定します。

市民のみなさまの生活や社会活動に欠かすことのできない水道を将来にわたり持続するために、積極的な情報提供や各イベント等でのPR活動を実施し、地域の水道として親しみをもっていただき、みなさまとともに水道を守り育てることができるよう努めます。

【達成度について】

- A：達成（設定した目標を達成することができた。）
 B：一部達成（設定した目標の一部のみ達成することができた。）
 C：未達成（目標達成に向け取り組んだものの、目標達成には至らなかった。）

【重点課題】

	重点課題	平成30年度 達成状況
1	吹田市水道施設マスタープランに基づく水道の再構築	A
2	経年化した浄配水施設・管路の更新	A
3	基幹管路の耐震化をはじめとした災害対策の強化	B
4	より安全でおいしい水の供給	A
5	積極的な情報の提供とPR・啓発活動・広聴活動の実施	A
6	安定した経営基盤の継続	B

部(局)名	水道部
-------	-----

重点課題 1	吹田市水道施設マスタープランに基づく水道の再構築
--------	--------------------------

全体の達成度
A
達成

目指すべき方向 (中期的な目標)	老朽化した施設が次々と更新時期を迎える中、おおよそ40年先の水道施設の将来像を描いたマスタープランに基づき、長期的な視野で水道施設の再構築に取り組みます。
---------------------	---

活動目標
市域南部の拠点施設と位置付ける片山浄水所の処理施設を膜ろ過方式を導入した浄水処理施設へ更新していきます。
片山浄水所と泉浄水所を相互にバックアップするため、シールド工法による直径1mの連絡管の整備を進めます。

具体的な取組実績
新たな処理施設の建築工事を中心として、進捗に合わせた建築電気・建築機械設備工事を行うとともに、場内整備として北側の造成工事を進めました。また、部内関係部署の職員が集まる全体会議を3回開催し、工事の進捗状況の報告や課題解決に向けた協議を行いました。
シールドマシンの発進基地において坑内外設備と防音ハウスの設置が完了し、片山、泉の2つの浄水所へ向けシールドマシンの掘進を開始するとともに、水道管を設置するために必要なトンネルの構築を進めました。また、泉浄水所内にシールドマシンの到達に必要な立坑を構築しました。

達成目標
片山浄水所水処理施設更新工事の計画的な進捗を図ります。
片山浄水所・泉浄水所連絡管布設工事の計画的な進捗を図ります。

達成状況	達成度
造成工事を行うとともに、電気・機械設備工事との調整を行いながら、排水処理棟の建築を進め、躯体工事を完了しました。同時に、擁壁築造に向けた整備を進めました。また、地元説明会を6回開催し、工事に対し地域住民の方の協力をいただきながら、概ね計画通り進めることができました。	A 達成
片山浄水所及び泉浄水所へ向けシールドマシンを発進させ、片山浄水所側へ約1,000m、泉浄水所側へ約600m掘進しました。また、一部工程の変更はありましたが、泉浄水所内に到達立坑を構築するなど、概ね計画通りの進捗を図ることができました。	A 達成

総合評価・総括
<p>片山浄水所における水処理施設の更新工事については、排水処理棟の建築と場内整備を中心に行いましたが、台風や大雨の影響で建築物のコンクリート打設等に遅れが生じました。全体工程には大きな影響はありませんでしたが、今後、このような偶発的な事象があっても対応できるよう、安全を第一に徹底した工事監理のもとで、計画的に水処理施設の構築を進めていきます。</p> <p>片山浄水所と泉浄水所をつなぐ連絡管の整備については、シールドマシンを発進させ水道管を設置するために必要なトンネルの構築を行うなど、概ね計画通りの進捗を図ることができました。今後は、片山浄水所及び泉浄水所へのトンネルを構築し水道管の設置完了等に向けて進めていきます。</p> <p>両工事とも地域住民の方々にも御理解、御協力をいただき進めているところですが、引続き周辺環境に配慮するとともに十分な安全管理に努めます。</p>

部(局)名	水道部
-------	-----

重点課題 2	経年化した浄配水施設・管路の更新
--------	------------------

全体の達成度
A
達成

目指すべき方向 (中期的な目標)	経年化した浄配水施設・設備や配水管路を計画的に更新していきます。
---------------------	----------------------------------

活動目標
経年化した浄配水施設の更新・改良を計画に基づき着実に推進します。
法定耐用年数（40年）を超過した水道管を対象に、本市の基準に沿って計画的に更新工事を実施します。

具体的な取組実績
千里山配水場無停電設備更新工事、佐井寺配水場計器盤等更新工事、佐井寺配水場他水質計器設置工事、泉浄水所ろ過池流入弁更新工事、穂波ポンプ場他受変電設備低圧化工事を計画どおり実施しました。 津雲配水場場内管耐震化等整備工事は、仕様の一部を見直したことにより発注時期に遅れが生じたものの、年度内に契約を締結しており、概ね当初の計画どおり、2020年度までに工事を完了する予定です。
耐震性を有しない印ろう継手鋳鉄管及びビニール管を優先しながら、布設後40年を経過した経年管約6kmを耐震性を有する新しい管に布設替えしました。

達成目標
本市の更新基準に基づき、ポンプ設備・電気設備及び計装設備の更新・改良を進めます。
経年化した水道管を約5km更新し、平成30年度末の経年化管路率を38%に抑えます。

達成状況	達成度
更新基準に基づき、おおむね当初の計画どおり設備の更新・改良を実施しました。	A 達成
経年化した水道管の更新延長は、前年度からの繰越分を含め約6kmとなり、平成30年度末の経年化管路率は38%を下回りました。	A 達成

総合評価・総括
<p>経年化した浄配水施設の更新・改良については、水処理設備や計装設備などの更新・改良を当初の計画どおり実施しました。津雲配水場場内管耐震化等整備工事では、大阪府北部地震を踏まえ、配水池の停止期間を可能な限り短縮しリスクの低減を図るため、仕様の見直しを行ったことで発注時期に遅れが生じましたが、年度内に契約を締結しており、概ね当初の計画どおり、平成32年度までに工事を完了する予定です。</p> <p>年々増加していく経年管の更新においては、平成29年度から繰越した約1kmの延長に加えて、平成30年度に予定していた約5kmの更新を完了したことにより、経年化管路率は38%を下回りました。</p> <p>今後は、浄配水施設、管路ともに第3次上水道施設等整備事業に基づき、年間更新延長8kmを目指して、年間を通じた工事の平準化を図りながら、着実に経年管の更新を進めていきます。</p>

部(局)名	水道部
-------	-----

重点課題 3 基幹管路の耐震化をはじめとした災害対策の強化

全体の達成度
B
一部達成

目指すべき方向 (中期的な目標) 災害時等の非常時においても、可能な限り断水することなく安定した給水が図れるよう耐震化等の施設整備を進めるとともに、災害対策の充実を図ります。

活動目標

基幹管路の耐震化を計画的に実施します。

災害時の給水活動に必要な備蓄物資の更新や災害対策の見直しなどを行います。

具体的な取組実績

南吹田駅前線及び岸部中千里丘線の配水本管耐震化工事などにより、約0.5kmの基幹管路の耐震化を進めました。

備蓄物資の更新として、臨時給水栓接続ホース80本、飲料水袋10,000袋、非常用ガソリン缶詰(1L)72本などを購入し配備しました。また、迅速に災害時給水拠点を開設できるよう、マニュアルを作成しました。

達成目標

基幹管路整備を約1.3km実施し、平成30年度末基幹管路耐震化率43%を目指します。

購入から年数の経過した臨時給水栓接続ホースの更新を進めるとともに、受援計画の策定に着手します。

達成状況	達成度
基幹管路の整備延長は、関連工事の遅れなどにより約0.5kmとなり、平成30年度末の基幹管路の耐震化率は、約42%にとどまりました。	B 一部達成
臨時給水栓接続ホースなど、経年劣化した備蓄品の更新を行い、配備しました。また、受援計画の策定に向けて、資料等を準備し、着手しました。	A 達成

総合評価・総括

基幹管路の耐震化については、市民の関心が高く、必要性も認識されている中で計画的に取り組んでいるところです。しかし、関連工事の遅れから中止となった工事があり、また、一部の工事を翌年度に繰越したことにより約0.5kmの実績にとどまり、目標を達成するには至りませんでした。引続き関係部署と密に工程調整を行いながら、効率的な工事の進捗に努めます。

備蓄物資の更新については、計画どおり実施できましたが、大阪府北部地震や台風などの被災経験を踏まえ、今後さらにハード・ソフト両面において強化・充実を図り、災害に強い水道システムの構築を進めます。

部(局)名	水道部
-------	-----

重点課題 4	より安全でおいしい水の供給
--------	---------------

全体の達成度
A
達成

目指すべき方向 (中期的な目標)	水安全計画の運用により安全性の向上を図るとともに、水道GLP（優良試験所規範）の事業所としてより高いレベルで水道に対する信頼を確保していきます。また、水道水中への鉛成分溶出の可能性が危惧される鉛製給水管の解消に向けた取組を進めます。
---------------------	--

活動目標
水安全計画の運用とともに実施状況を検証します。併せて水道GLP対象の水質基準51項目をはじめ100項目以上の水質検査を実施し、水道水の安全性を確保します。
鉛製給水管の解消に向けた面的整備として、江坂町・豊津地域ほかを対象に取替を実施するとともに、管路の更新や修繕、給水装置工事などあらゆる機会を捉えた解消に努めます。

具体的な取組実績
水安全計画に基づき水源からじゃ口まで総合的な水質管理を行うとともに、工務室と浄水室で連携して水安全計画検討委員会を開催し、水安全計画の運用状況を検証するなど、安心安全の水道水の供給に努めました。 水質検査計画に基づき、適切に水質検査を実施しました。
管路の更新や修繕、その他の工事に伴い鉛製給水管を撤去するとともに、面的整備では江坂・豊津地域及び佐井寺3、4丁目と千里山東の一部において、鉛製給水管残存状況調査結果に基づき解消に努めました。また、平成31年度工事の早期発注のため、予定地域である春日、山田市場、樫切山等において、調査や工事の申込みについての説明を行いました。

達成目標
水安全計画検討委員会、水処理検討委員会を定期的で開催します。また、水道GLP精度管理実施計画書に基づき、適切に精度管理を実施します。
面的整備をはじめあらゆる機会を捉えた取替工事を進め、平成30年度鉛製給水管の解消件数2,900件を目指します。

達成状況	達成度
水安全計画検討委員会を5回、水処理検討委員会を12回開催しました。 水道GLP精度管理実施計画書に基づき、外部精度管理及び内部精度管理を計画通り全て実施しました。	A 達成
鉛製給水管解消策の主となる面的整備事業においては、概ね順調に当初計画していた地域の工事及び残存調査を完了しました。面的整備において工事申込が想定よりも少なかったことに加えて、残存数そのものの減少に伴い修繕工事等による解消が減っていることから、目標件数をやや下回ったものの、経年管更新や修繕、その他あらゆる機会を捉えた取替工事を含め解消に努めました。	A 達成

総合評価・総括
<p>水質検査計画に基づき適切な水質検査を実施した結果、管末給水栓において全ての水質基準値を満足しており、安全な水道水であることを確認しました。また、水安全計画検討委員会を定期的開催し運用状況の検証を行ったほか、水処理検討委員会の開催、検討など、安心、安全な水道水の供給に努めました。</p> <p>鉛製給水管の解消については、平成22年度から鉛製給水管布設替事業（面的整備事業）として、水道部職員による各戸訪問や調査、工事受付を実施し解消に取り組んできたところです。面的整備事業においては、例年、私道の掘削承諾が得られない等の理由により解消困難なケースが発生しており、平成30年度の鉛管解消件数についても目標値をわずかに下回ったものの、当初計画していた地域の工事及び残存調査は概ね順調に完了し、鉛製給水管の解消に努めました。</p> <p>引き続き、面的整備事業におけるきめ細かな対応等により鉛製給水管の解消を図ります。</p>

部(局)名	水道部
-------	-----

重点課題 5	積極的な情報の提供とPR・啓発活動・広聴活動の実施
--------	---------------------------

全体の達成度
A
達成

目指すべき方向 (中期的な目標)	市民の水道事業への理解が深まるよう、積極的な広報・PR活動やわかりやすい情報提供に努めるとともに、幅広い広聴活動を行います。
---------------------	--

活動目標
広く市民の意見を知ることができる広聴の取組を充実します。
市民の水道事業への理解を深めるために、様々な市民に直接説明し対話する機会を増やします。

具体的な取組実績
<p>附属機関である水道事業経営審議会を4回開催しました。また、地域での「水道いどばた会議」において、水道部の取組等について多くの質問・意見をいただきました。</p> <p>イベント等において、合計31回のアンケート調査を実施するとともに、新たにホームページ上でもアンケートを実施しました。</p> <p>「すいすいくん祭り」等のイベントを4回開催するとともに、「吹田スタジアムフェスタ2018」などのイベントに参加し、水道事業のPRを行いました。また、水道いどばた会議24回、出前授業9回、職業体験5回、出前講座1回、防災訓練11回を実施しました。</p>

達成目標
水道部のイベント等において従来から実施しているアンケート調査に加え、ホームページを利用したアンケート調査を実施します。
学校や地域団体等と連携した取組を実施します。

達成状況	達成度
<p>上記の取組実績のとおり、様々な機会をとらえてPR活動を行うとともに、アンケート調査等を実施することができました。</p> <p>アンケート調査には、約2,200件の回答がありました。</p>	A 達成
<p>小学校では出前授業、中学校では職業体験、大学では出前講義を行いました。また地区公民館等の地域団体の協力により、「水道いどばた会議」において、水道事業の現状や課題等について、市民理解を広げる取組を実施することができました。</p>	A 達成

総合評価・総括
<p>平成30年度は、毎年恒例のイベントに加えて、インフォレストすいたや博物館などでのパネル展示などにも積極的に取り組みました。また、ホームページでのアンケートの実施や、職員が地域に出向く「水道いどばた会議」などの新たな広報・広聴活動を実施し、水道事業のPRを行うとともに水道事業に対する様々な意見をいただくことができました。</p> <p>また、大阪府北部地震や台風21号などの自然災害を経験し、ホームページや広報誌「すいどうにゅーす」、地域の防災訓練等において、災害時給水拠点や応急給水訓練などの災害時の対応に関する広報に努めました。</p> <p>今後も、地域の水道として、市民の皆様からより一層の信頼を得られるよう、分かりやすい情報の発信及び広聴活動の充実に努めます。</p>

部(局)名	水道部
-------	-----

重点課題 6	安定した経営基盤の継続
--------	-------------

全体の達成度
B
一部達成

目指すべき方向 (中期的な目標)	水道システムの再構築を進めるため、財政面・組織面での経営基盤の安定を図ります。
---------------------	---

活動目標
<p>財務規律の考え方の整理や今後10年間の財政状況のシミュレーションを行うとともに、中・長期的な事業運営の方向性を明確にして経営基盤の安定を図ります。</p> <p>水道部職員として必要な専門性を有する人材の育成を目指した職員研修の充実を図ります。</p>

具体的な取組実績
<p>経営戦略と位置付ける新たな基本計画の策定について、水道事業経営審議会からの答申に基づき、担当者会議を31回開催し検討を進めました。</p> <p>また、新たな基本計画に基づく施策・事業について、実効性の高いものとなるよう部内各部署と協議を行うとともに、部内全職員を対象にした部研修を6回開催しました。</p> <p>専門性を有する人材の育成のため、部研修を15回実施し、日本水道協会等が実施する研修に延べ178回参加しました。また、希望する職場で実務的な研修を受ける「部内インターンシップ制度」を創設しました。</p>

達成目標
<p>経営戦略と位置付ける中・長期的な視点の新たな基本計画（水道事業ビジョン）を策定します。</p> <p>従来から実施している部研修や外部研修、資格取得支援などの取組を引続き進めるとともに、職員が担当以外の業務を経験するインターンシップに取り組みます。</p>

達成状況	達成度
<p>健全経営に必要な財政規律の考え方を整理するとともに、財政シミュレーションを行いました。新たな基本計画における施策体系や事業内容などの全体像はできつつあるものの、今般の災害による教訓の反映や改正水道法への対応など更なる検討が必要となったことから、新計画の策定期間を延期しました。</p> <p>専門知識を有した職員の育成を目指した取組として、平成30年度は部内インターンシップ制度を創設し、7名全ての新規採用職員がこの制度を利用しました。</p> <p>職員資格取得度は1.8件/人、内部研修時間は8.9時間となりました。</p>	<p>B</p> <p>一部達成</p> <p>A</p> <p>達成</p>

総合評価・総括
<p>本市水道事業の経営基盤の強化を図るための取組として、平成29年度から経営戦略と位置付ける新たな基本計画の策定に取り組んでいます。平成30年度は、今後10年間の事業の方向性や施策・事業・具体的な取組について検討を進めました。また、事業の方向性を踏まえた財政推計を作成するとともに、「健全な事業経営」に必要な財政規律の考え方を整理のうえ財政シミュレーションを実施しました。</p> <p>新たな基本計画の策定については、平成30年度中に達成できませんでしたが、災害対策の強化や効率的な事業実施、財源確保などについて引続き部内の協議や意見交換などを重ねながら、平成31年9月の策定を目指して取組を進めていきます。</p> <p>また、これらの事業を担う職員の育成も基盤強化につながる重要な課題の一つであり、平成30年度は水道事業に関する業務について理解を広げ今後の業務に活かせるよう、新たに部内インターンシップ制度を創設しました。今後も引続き従来から実施している取組や同制度を活用し、水道に関する知識を有する職員の育成に努めます。</p>